

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 齊藤 光江 順天堂大学医学部 教授

研究要旨

高齢者がん医療 Q&A「第3章 支持・緩和治療」の編集委員として、高齢者の支持・緩和治療をまとめた。

A. 研究目的

がん患者にはがんに伴う症状・兆候とともにがん治療による副作用がみられる。そのコントロールには適切な支持療法が重要である。適切な支持療法は、症状緩和だけでなく、生存期間の延長にもつながるとの報告もある。なかでも、高齢者は加齢による心身の機能が低下しており、がん治療による副作用の頻度も重症度も増加する。したがって高齢がん患者のマネジメントにおいては予防や早期発見早期治療が重要であること、また支持療法自体が持つ有害事象に対しても配慮が必要である。

B. 研究方法

栄養と悪液質、CINV、感染症対策、心・血管障害、痛み、医療用漢方製剤、がんのリハビリテーション、骨転移と骨の健康、神経障害、粘膜障害、皮膚障害、リンパ浮腫、輸血の13項目について、日本がんサポーターブケア学会の部会員を中心に執筆を依頼した。いずれの領域もきわめてエビデンスが少なく、とくに高齢者に特化した臨床試験がほとんどないこともあり、過去の情報をできるだけ集積しQ&A方式で整理し、臨床に役立つ情報になるように配慮した。これらの情報が標準あるいは

コンセンサスから偏らないように部会内の査読ならびに学会のHPに掲載して、がん関連学会の意見ならびにpublic commentsを得て、執筆者に修正・追記をしてもらった。

(倫理面への配慮)

なし

C. 研究結果

支持・緩和医療領域13項目について、Q&Aとして整理した。その内容は日本がんサポーターブケア学会のHPに掲載・公表し、医療関係者、患者・家族、一般国民においては、ネット環境があれば、どこでもフリーでアクセスすることができる。

D. 考察

支持・緩和治療はエビデンスの少ない領域であり、実地医療では高齢患者に限らず、医療者が文献を参考に経験則で対応している現状がある。また高齢者は個人差が大きく、臨床試験を行うことが難いため、エビデンスの構築が難しいが、研究方法の研究を含め、前向き臨床試験、あるいは big data を応用した研究の推進を計画しなければならない。

E. 結論

高齢がん患者のケアには、加齢に伴う心身の機能低下を評価し、がん治療を実施時には適切な支持療法を実践することが求められる。エビデンスの構築に向け今後の研究が期待される。同時に本領域にはエキスパートが極めて少ない現状から人材育成も喫緊の課題である。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3.その他

該当なし